

高等学校国語「現代文B」学習指導案

平成28年9月29日5時限

第3学年O組35名

授業者 塩田 妙子

1 科目 「現代文B」第一学習社

2 単元名 評論「現代日本の開化」夏目漱石

3 単元設定の意図

① 生徒の実態

生徒は授業や課題には真面目に取り組むものの、概して受動的な姿勢が目立つ。伝達型授業に慣れており、自ら進んで読もうとするのではなく、授業者の解説を全面的に頼っているような印象を受ける。

1学期には、授業内で記述問題に解答させる機会を設けた（2～3時間に1回程度）ところ、正解を与えられるのを待つ生徒が大半だった。また、これまでに教科書で学習した評論、もしくはその評論の思考の枠組みを用いて、現代の社会状況や自分の生活を分析する活動を行ったことはない。

② 教材観

本教材は、1911年（明治44）に行われた講演の記録に筆者が加筆修正したもので、「私の個人主義」と並び、漱石の代表的な文明批評と言われる。「内発的」な西洋の開化に対して、「外発的」な日本の開化を分析した上で、明治日本の窮状と悲観すべき将来が提示されている。

その漱石の認識は、100年後の今日においても現実的な方向性を示している。外圧によるグローバル化の激しい波の中で、人々は自己変革を迫られ精神的に病んでいると言っても過言ではない。漱石の悲観した将来に生きる学習者に、漱石のものの見方、表現の仕方を借りることで現代社会を捉えさせたい。

同じ筆者の作品では『夢十夜』（1年次）、『ころも』（2年次）が既習である。また、本教材と同様の、二項対立の枠組みによる社会批評の評論文は、1学期に『『であること』と『すること』（丸山真男）を学習した。

大学入試現代文での得点力の養成も望まれており、本教材後に小説1編を学習した後は、問題演習を予定している。新テストを意識した問題対策を兼ねて、本文中の抽象的な概念から、社会や生活の中での具体例を挙げる訓練をさせたい。

③ 本単元で工夫する点や手立て

アクティブ・ラーニングにおける、特に「主体的な学び」と「対話的な学び」の視点を取り入れ、単元を構成する。具体的には、筆者との対話を通して、学習者の生きる今日の社会を主体的に捉え直させたい。そのための工夫として、教材読解後に「2016年版・現代日本の開化」を書くことを目標として掲げる。

4 単元の目標

- (1) 文章を読んで批評することを通して、今日の日本社会について自分の考えを深めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 文章を読んで批評することを通して、今日の日本社会について自分の考えを深めることができる。
(読む能力)
- (3) 語句の意味を理解するとともに、表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てている。(知識・理解)

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 知識・理解
単元の評価規準	文章を読んで批評することを通して、今日の日本社会について自分の考えを深めようとしている。	文章を読んで批評することを通して、今日の日本社会について自分の考えを深めている。	語句の意味を理解するとともに、表現上の特色を捉え、自分の表現に役立てている。
学習活動における具体的評価規準	①筆者の考えやその表現の仕方を進んで捉えようとしている。 ② ①を踏まえて、今日の日本社会を捉え直し、書き表そうとしている。	③文章の構成、展開、要旨を的確に捉えている。 ④「内発的」「外発的」というキーワード(思考の枠組み)を用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めている。	⑤本文中の語句の意味を正しく理解している。 ⑥表現上の特色(文体・比喩・展開・二項対立的概念)を捉えている。 ⑦上記の表現上の特色を自分の表現に役立てている。

6 単元の指導と評価の計画(全6時間扱い)

時	主な学習活動(学習内容)	具体的評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
1	○単元の目標を確認する。 ○筆者の生きた時代を確認する。 ○本文を通読する。 ○筆者が当時の日本をどのように捉えているか、読み取ったことを書き出す。 ○語句の意味を調べる。	アー① オー⑤	○本文を読解する中で、今日の社会との関連で、気付くことがあるらメモをするように指示する。 ○本文にマークや線を書き入れながら、読むように指示する。	観察・発問・ワークシート ○筆者が当時の日本をどのように捉えているか、読み取ったことを書き出そうとしている。 【関心・意欲・態度】
2	○第一段落読解 開化とは何かを理解する。	エー③	○さまざまに言い換えられている語句や例を整理させる。	観察・発問・ワークシート ○開化をなす積極的・消極的活動を理解できる。【読む

	○第二段落読解 開化の産んだパラドックスを理解する。 ○表現の工夫を挙げる。	オー⑥	○スモールステップを用意し、段階的に考えられるように援助する。	能力】 ○開化により生存の苦痛は軽減しないことをつかむ。 【読む能力】 【基準に達しない生徒への手立て（以下Cへの手立て）】 指示語・接続語等に注目させて、二項対立を整理させる。
3	○第三段落読解 西洋の開化と日本の開化の違いを読み取る。 ○第四段落読解 開化の本来の姿を読み取る。 ○表現の工夫を挙げる。	エー③ オー⑥	○多様な比喩表現に注目させる。 ○「意識」の話題が持ち出された理由を考えさせる。	観察・発問・ワークシート ○「内発的」「外発的」の意味を理解する。【読む能力】 ○開化は本来、意識と同様、順次推移するものであることを把握する。【読む能力】 【Cへの手立て】 歴史的な状況を説明する。
4	○第五段落読解 外発的开化による心理的影響を読み取る。 ○第六段落読解 内発的な開化を目指した場合に陥る結果と、筆者の結論を読み取る。 ○表現の工夫を挙げる。	エー③ オー⑥	○多様な比喩表現に注目させる。	観察・発問・ワークシート ○「皮相、上滑りの開化」は「空虚の感」「不満と不安の念」を伴うものであることを読み取る。【読む能力】 ○「神経衰弱」に陥ってしまう「言語道断の窮状」・「悲観的の結論」を読み取る。 【読む能力】
5 本時	○「2016年版・現代日本の開化」の構想メモを作成する。 ○構想メモに基づき、作文する。	ア－②	○今日の日本社会を「内発的」「外発的」の枠組みで捉えるよう指示する。	観察・ワークシート
6	○「2016年版・現代日本の開化」をグループで読み合う。 ○グループの代表者がクラス全員の前で発表する。	エー④ オー⑦	○話題や捉え方が重複しないよう、グループ編成に配慮する。	観察・ワークシート

7 本時の指導と評価の計画（5／6 時間目）

（1）本時の目標

- （i）「内発的」・「外発的」というキーワードを用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めようとしている。
（関心・意欲・態度）
- （ii）「内発的」・「外発的」というキーワードを用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めている。
（読む能力）
- （iii）比喩表現を始めとする本文の表現上の特色を、自分の表現に役立てている。（知識・理解）

（2）本時の評価規準

ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 知識・理解
「内発的」・「外発的」というキーワードを用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めようとしている。	「内発的」・「外発的」というキーワードを用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めている。	比喩表現を始めとする本文の表現上の特色を、自分の表現に役立てている。

（3）本時の展開例

段階 時間	主な学習活動・学習内容	具体的 評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 （評価の観点・方法）
導入 (5)	○「内発的」・「外発的」の意味を、再度確認する。		○前時までの復習なので、該当する本文箇所やワークシートを参考にするよう指導する。	<u>観察・ワークシート</u> 【Cへの手立て】 第三段落を読むように促す。
展開 (40)	○今日の日本社会の事象を挙げ、「内発的」か「外発的」かに分類する。 ○上記について、ペアで相談、共有する。	アー②	○日本社会の事象を列挙させ、板書する。 ○それらの事象について「内発的」か「外発的」か考えさせる。 ○答え合わせをするだけでなく、どういう側面によって判断したのか、つまり分類の根拠も合わせて説明するように指示する。	<u>観察・ワークシート</u> ○筆者の考えや表現の仕方を踏まえて、今日の日本社会を捉え直し、書き表そうとしている。 【関心・意欲・態度】 【Cへの手立て】 身近な話題（スポーツ・音楽・ファッションなど）で考えてみるよう助言する。

	○事象を1つに絞り、「内発的」か「外発的か」、理由（現実的側面）、適切な比喩表現を考える。 ○その他、表現上の工夫を考える。 ○「2016年版・現代日本の開化」を200～400字で書く。	エー④	○比喩表現は本文に倣いつつ、できるだけ独自の表現を開発するように指示する。 ○前時までに学習した表現上の特色を参考にさせる。	○「内発的」・「外発的」というキーワードを用いて、今日の日本社会について自分の考えを深めている。【読む能力】 【Cへの手立て】 考えがまとまっていない場合は、個別に指導する。
まとめ (5)	○ワークシートと小論文を提出する。 ○次回の授業内容の確認		○次回、読みあわせと発表会をする旨を連絡する。 ○提出された小論文に目を通し、状況に応じて、読み合わせのグループ編成をする。	